# 舞鶴の山城

舞鶴山城研究会
廣瀬　邦彦

臨時版

## 田辺籠城戦・大手での合戦《後編》

田辺籠城戦での大手・杉の馬場を舞台とする物語は続きます。

⑤七月二五日の午後二時頃、敵が大勢、大手に攻めかかった。ここは荒木善兵衛、丸山助左衛門、宮部市左衛門、大塚源次らの持ち口だったので、それぞれの持ち場から鉄炮を撃ち、北村甚太郎も搦手（現在の田辺城の大手側）からもどって鉄炮を撃った。

この時大手杉の馬場の城から二五〇メートルばかりの道に敵の小出大和守、山崎左馬助の幟が来て、しきりに鬨の声をあげ攻めかかった。

しかし先駆けの武者、中では覚悟していたところ、そうではなく堀溝にかがんで引くことができなかった者どもを引取るため、馬上で采配を振り回して味方を招き、馬を乗り回して静かに引取っていった。みごとな振る舞いであった。

### 敵ながらあっぱれ亀右衛門
### 鉄炮玉の雨のなか味方を収容して帰陣

幟差しの者八・九人をうち倒したら、あとの軍勢は勢いを失い道に立ち止まり、かといって引くこともできず、溝にかがんだり、木の根にとりついたり、または人のあとに隠れたりして午後四時頃までかがんでいた。

その時赤松左兵衛の陣中から母衣武者が一騎駆け出し、杉の馬場口に乗り廻すので、一戦交えるつもりかと城中からはよく狙って鉄炮をさかんに撃ちかけたが、遠くて当たらなかった。この武者は赤松左兵衛の家来の井門亀右衛門重行という者であった。

のち、北村甚太郎が亀右衛門に「あの時の杉の馬場でのよき武者振りは貴殿でござったな。城中から鉄炮を撃ったが当たり申さなかった。」というと、亀右衛門は「いや、当たらなかったのではござらん。冑の立物、母衣の出し、母衣にも鉄炮の玉の跡がござった。」と言った。

また亀右衛門は「細川方が籠城をしはじめたとき、大手に生えている杉を切れとの幽斎の指示であったが、急なことなので三・四尺（一メートル余り）ほども残して切ってあったから、攻め手はこの切り株を盾にして城に攻め寄ったのだ」とも言った。

⑥同日の暮れになり、敵の首二つがもたらされたので幽斎様は喜ばれた。

大手を守る北村甚太郎は、搦め手（現在の田辺城の大手側）から首が上がったのだから我らも首をとって進上しようと大手の門外に走り出たところを、妙庵様（幽斎の三男）がお聞きになり、「甚太郎の度々の働きはすでに眼前にしておる。その他の者に首を上げさせよ。」と仰せになったので、大塚源次の家来岡本源内に敵の首をとらせ進上させた。

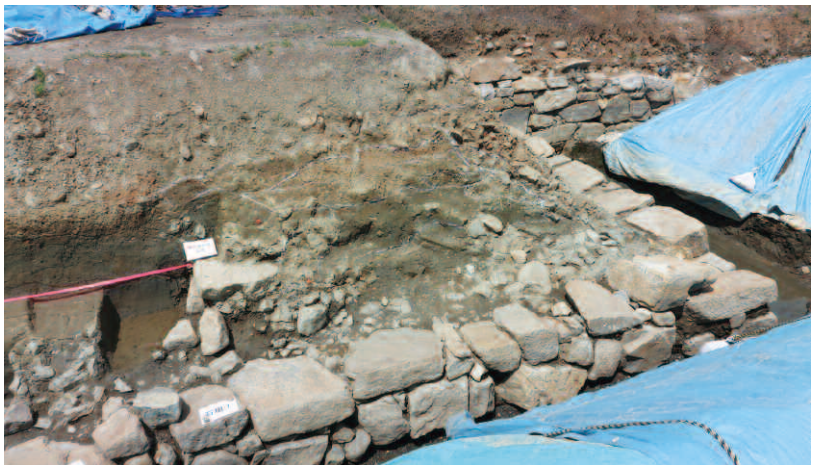
これ以後は次第に持久戦となっていきます。かわって宮中からの和睦工作が展開され、古今伝授の物語へすすんでいきます。

ちなみに田辺籠城戦が終わるのは九月十二日です。

※題字は松岡秀雄さん

……

これらの物語が展開された舞台こそ、今回四二三年ぶりに出現した石垣と大手の遺構です。



発掘された大手口と石垣

現在、取り出された石垣の石は別の場所に保管されていますが、これをどこに再建するかは未定だそうです。

私個人としては、石垣だけでなく大手の出口も再現することと、できれば東西南北の向きを変えない形で再建してほしいと願っています。

【遺構の詳しい説明については、9月22日（金）の午後1時半から、舞鶴市西公民館の「歴史講座」第一回として、発掘担当者による説明会が予定されています▽場所は西公民館201会議室▽定員50名▽申込〆切12日（火）▽受講料200円▽参加申込は舞鶴市西公民館（☎0773・75・6501）まで】